



雨の現象や 防災のポイントを わかりやすく紹介

ゲリラ豪雨展を 開催します



「ゲリラ豪雨?」「1時間に30ミリの雨?」。

聞いたことはあるけど上手く説明できない雨の現象や防災のポイントについて、イラスト、映像、音、体験コーナーなどで、子供から大人まで、わかりやすく紹介します。

「あいぽーと」では平成26年から毎年開催しており、今回で4回目となります。

- 【開催場所】 北上川学習交流館 あいぽーと (岩手県一関市狐禅寺字石ノ瀬155-81)
- 【開催期間】 平成29年 6月29日(木) ~ 8月16日(水)
- 【開館時間】 9時00分~17時00分
- 【休館日】 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌日) 【入場料】 無料
- 【展示内容】 主な展示内容は、次のとおり

●ストーリー展示「ある夏の日」

「ゲリラ豪雨の発生から収束まで」を、学校帰りの小学生の行動をたどりながら紹介する絵本のような展示です。



下校中に突然、



黒い雲が

●聴き雨展示(ヘッドフォン)

実際の豪雨や落雷の状況を臨場感あふれるサウンドで体感します。



●映像展示「こんなことが起きる」

川の水が急に増水する、マンホールが飛び出すなど、ゲリラ豪雨によって起きる現象を映像で紹介します。



●ことばあめ

(インタラクティブ映像展示)

画面の中に入ると、上から雨のことばが降ってきます。



●雲発生実験「雲をつくってみよう」(ペットボトル)

ペットボトル内にシュポシュポと空気を入れると、雲が出来る!



●雨の重さの体験展示(ペットボトル)

たたみ一畳に30mmの雨が降ると、どれだけの水の量になるの?降った雨の重さをペットボトルの水を動かして実感。



●解説パネル展示

「雨の降る仕組み」、「ゲリラ豪雨の特徴」、「ゲリラ豪雨と集中豪雨の違い」をイラストや写真で解説します。



ゲリラ豪雨による「川の水位の変化」、そのとき川にいた人たちの「増水による事故」の状況、「身を守るためのポイント」を紹介します。



「ゲリラ豪雨展」の展示ユニットについて

- 「ゲリラ豪雨展」の展示ユニットは、大学の学生や教員、気象キャスター、展示プランナーやデザイナー、国土交通省の職員等の有志のメンバーからなる「水の巡回展ネットワーク（JAWANET）」によって企画・開発されました。

「水の巡回展ネットワーク（JAWANET）」は、水に関する様々なテーマの展示ユニットを開発し、それらを各地の展示館で巡回展示しています。巡回展示の機会を利用して調査を行いながら、多くの場所で活用できる、汎用性の高い、楽しく学べる展示を創造していくことを目的に活動している団体です。

- 展示の様子（写真は、昨年6月に「あいぽーと」で展示したときのものです。）

①ストーリー展示



①ストーリー展示：「ゲリラ豪雨の発生から収束まで」を、学校帰りの小学生の行動をたどりながら紹介する、絵本のような展示です。

②映像展示：「増水の体験談」のインタビュー、川の水が急に増水する、マンホールが飛び出すなどの「ゲリラ豪雨の影響」などを映像で紹介します。

③聴き雨展示：実際の豪雨や落雷の状況を臨場感あふれるサウンドで体験できます。

④雨の重さの体験展示：たたみ一畳に30mmの雨が降ると、どれだけの重さになるかを、ペットボトルの水を動かして実感。

②映像展示



③聴き雨展示



④雨の重さの体験展示



北上川学習交流館「あいぽーと」（国土交通省 一関防災センター）について

- 「あいぽーと」は、北上川の風土と民俗、歴史と文化、災害と治水などの種々の情報を広く発信し、学習体験や流域内の交流を図るための総合情報拠点^{※1}であるとともに、災害時における防災活動拠点^{※2}となる施設です。

施設は、1階に展示室、学習スペース、2階に一関遊水地集中管理センター、3階に展望室などを有しています。

※1 総合情報拠点として

展示室（1階）には、北上川流域や災害などのパネル展示、北上川流域全体の航空写真（20m×6m）、治水に関する模型、北上川に関する図書などがあります。展示室、展望室（3階）は、自由に見学することができます。

また、学校関係団体や一般団体の館内見学、学習の受付を随時行っています。学習内容は、過去の水害、北上川の特徴、一関遊水地、防災センターの役割、館内施設見学などです。



※2 防災活動拠点として

災害時は、防災センターとして、状況把握と復旧対応を行う拠点となります。

平成20年6月の岩手・宮城内陸地震、平成23年3月の東日本大震災では、国土交通省の現地対策本部が設置され、テックフォースの派遣及び災害復旧の拠点などとして機能しました。

GOOOO!! & tornaDOOO!!

ゲリラ豪雨展

巡回企画展「ゲリラ豪雨に備えて」

「ゲリラ豪雨」って何だろう？
その仕組みと恐ろしさを体感して、
危険から身を守ろう！

【開催館】北上川学習交流館 あいぼーと

【開催期間】平成29年 6月29日(木)~8月16日(水)

【休館日】毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 【開館時間】9:00~17:00

【主催】国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所

【共催】一般社団法人 東北地域づくり協会

【企画制作】水の巡回展ネットワーク【協力】NPO法人気象キャスターネットワーク、ファンザミュージズ
東京学芸大学環境教育研究センター、東京学芸大学グラフィックデザイン研究室、
日本河川・流域再生ネットワーク、九州産業大学 芸術学部メディアラボ 331

【展示内容】ストーリー展示(ゲリラ豪雨発生から収束)、
解説パネル展示、河川の増水等の映像展示、
聞き雨展示、雨の重さの体験展示、等。



国土交通省



Our Life, with River

河川整備基金

公益財団法人河川財団の

河川整備基金の助成を受けて制作しました



GOOOO!! & tornaDOOO!!

ゲリラ豪雨展

巡回企画展「ゲリラ豪雨に備えて」

巡回企画展「ゲリラ豪雨に備えて」

「ゲリラ豪雨?」「1時間に30ミリの雨?」聞いたことはあるけど上手く説明できない雨の現象や防災のポイントについて、わかりやすく紹介します。

水は私たちの生活にとって欠かせないものですが、私たちの生活に大きな影響を及ぼすこともあります。ゲリラ豪雨による河川の急な増水によって、多くの人の命が失われたことは、みなさんの記憶にも新しいことでしょう。

この企画展では、「ゲリラ豪雨の発生から収束」を学校帰りの小学生の行動をたどるストーリーで、また「雨の降る仕組み」や「ゲリラ豪雨と集中豪雨の違い」、「身を守るためのポイント」を図解でわかりやすく展示しています。他にも映像でみる「ゲリラ豪雨の影響」や「雨つぶのかたち」、「降った雨の重さ」を体感できるコーナーなどもあります。

雨の大変さや怖さをあらためて認識し、危険を察知するために大切なことは何なのか、みんなで一緒に考えてみましょう。



この展示の企画制作：この展示は、大学の学生や教員、気象キャスター、展示プランナーやデザイナー、国土交通省の職員等の有志のメンバーからなる「水の巡回展ネットワーク(JAWANET)」によって企画・開発されました。水の巡回展ネットワークでは、水に関する様々なテーマの展示ユニットを開発し、それらを各地の展示館に巡回しています。巡回の機会を利用して調査を行いながら、多くの場所で活用できる、汎用性の高い、楽しく学べる展示を創造していくことを目的に活動しています。



「カスリン・アイオン台風」から「70年」を節目に、これまでの水害を振り返り、これからの防災について一人一人がしっかりと認識し、備えることがとても大切です。

1947年9月来襲「カスリン台風」
1948年9月来襲「アイオン台風」



北上川学習交流館 あいぽーと

【開館時間】9:00 ~ 17:00

【休館日】毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

【入場料】無料

【交通】東大橋近くの狐禅寺バス停から歩いて約10分

JR一関駅からクルマで約10分

JR山目駅からクルマで約10分

東北自動車道一関ICからクルマで約15分

【住所】〒029-0131 岩手県一関市狐禅寺字石ノ瀬155-81

【電話】0191-26-0077